

# 12月22日議会

## 再稼働“賛成多数”で可決

**県民の不安は置き去りに！**

会派	議員数	賛成	反対
自由民主党 (議長を除く)	31	29	0
真政にいがた	3	3	0
公明党	2	2	0
未来にいがた	9	0	9
リベラル新潟	6	0	6
無所属(馬場)	1	0	1
合計	52	34	16

**贊成34：反對16**

傍聴席は満席。立ち見の人もありました。公明党・真政にいがたからは「原発は国策」「安全確保は確認済み」などの理由を挙げた賛成討論が行われました。その都度、傍聴席からは「何を言っているんだ！」と、あちこちで怒りの声が上がりました。事務所で行った視聴会でも「福島事故を忘れたのか」と声が上がりました。私はこの無謀で強引な採決に強く反対を訴えましたが、結果は賛成多数での可決となりました。私は、この他にも原発再稼働関連の議案(自民党の付帯決議案)にも反対討論をしました。

◆**原発の再稼働を前提とした原発の理解促進事業に約310万円を支出する**という補正予算案

私は、反対します。この予算案は、議会に対して花角知事の原発再稼働の容認の判断につき「信を問う」という目的で提出されました。

しかし、予算はお金の出し入れの話であり金に色はついていません。「信を問う」という直接の目的から随分離れています。

私は、あくまで知事は県民に住民投票或いは知事選で県民に対して「信を問う」べきであると考え、知事とは立場を異にします。たとえ議会に信を問うとしても、目的に即したストレートな議案を出すべきです。

それができないのは、信任・不信任案の発案権は議会に専属し、知事が発案できないので、やむを得ず予算案にその趣旨を入れ込んだものだと思います。

つまり、知事の発言に

即した議案を提出できないものだから、何とか辻褃を合わせるために今回の予算案が提出されたとし考えられませんか。

しかも、この事業によって認知度が高まったかどうかの検証についてするつもりはないと知事は明言しました。

知事の発言に何とか辻褃を合わせるだけが目的の予算案であり、賛成は到底できません。

## ◆花角知事の原発再稼働容認とする判断を「是」とする付帯決議案

私は、反対します。知事は、7年前の選挙で「県民の信を問う」ことを約束して当選しました。信を問うべき相手は「県民」であつて「県議会」ではありません。

知事は、先日的一般質問で選挙時のことを問われて、「県民」には県民の代表者である「県議会」も含まれると思つていたと強弁する始末です。言葉をこれ以上、弄ぶのはいい加減にしてほしい。

7年前の県知事選では、原発再稼働の動きがあり、最大の争点になりました。原発の再稼働が、政治家に決められてしまうことを懸念した県民は「県民に信を問う」という言葉に期待しました。その「県民」には、県民の代表者である知事や議会など含まれているわけがありません。知事もその県民の気持ちを知って行動してきただけです。それを今になって「県民」に県民の代表機関である県議会も含まれるというのでは、県民に対する背信であり、政治に対する信頼を地に貶めたとはいえません。県議会にも同じことがいえます。

3年前の県議選での原発再稼働に対するアンケート調査で、再稼働に賛成すると明言した議員は僅か3名でした。そして、現在も原発再稼働についての県民の賛否は拮抗した状態です。

県議会が民意を反映した構成になっているとはいえません。

馬場ひでゆきの活動日誌

発行責任者 馬場 ひでゆき 事務所  
新潟県上越市本町3丁目3番3  
号ダイアパレス 高田式番館2階  
電話 0255-5467110  
Fax 0255-5467666  
メール keng-i-baharideyuki@  
wind.ocn.jp

- 県民による投票は地域の分断に繋がるため、それを避けたかった。
- 国からの理解要請を長く引き伸ばすのはできない。だから、県議会に信任・不信任を図る方法を選択した。
- 様々な分野から、県議会での議決を望む声が出ていた、又、県議会でも、知事から信任・不信任の問かけがあった場合には議会としての意思を示す旨の決議がなされていた。

今回は事務所で印刷しました。そのため、いつもと異なりA4・片面のみカラーですがお許しください。